

7 透析室におけるウォーキングカンファレンスの有用性

○ 大月薫¹⁾ 河野君江¹⁾ 金子千恵子¹⁾ 山本佳子¹⁾ 藪崎さつき¹⁾
 池田佳世¹⁾ 鹿川栄美子¹⁾ 田野尻洋子¹⁾ 山田吉広²⁾ 熊藤公博²⁾
 袖山孝徳²⁾ 須澤大知³⁾ 酒井善之⁴⁾
 豊科赤十字病院 透析室¹⁾ 同臨床工学課²⁾ 同泌尿器科⁴⁾ 須澤クリニック³⁾

【はじめに】

透析患者の多くは自立しており、自分のケアには責任を感じている。看護師の責任としては、患者に協力し、患者に生じている問題を解決するため、セルフケアの指導が不可欠であると感じられる。当院透析室では患者の問題に焦点を当てた看護計画の立案ができずにいた。そこで、ベッドサイドにて患者の情報を積極的に取り入れることができるウォーキングカンファレンス（以下WCFと略）の導入を試みた。導入により患者の満足感が高まり、情報不足も解消されたので報告する。

【目的】

WCFの導入により情報不足を解消し、看護計画の立案を容易にし、指導およびケアの統一を図る。

【当院透析室WCF方法】

1. リーダー看護師と受持看護師は穿刺終了後患者のベッドサイドへ行き、カルテ、透析経過記録、機械の設定を見ながら除水量、透析時間、注射薬の確認をする。
2. 患者と看護師2名で気になることについて話し合う（除水量・ケア・検査結果・食生活等）話し合いの内容によりケアの実践を行ったり、看護問題として取り上げていくことを決める。
3. 看護計画や看護計画の評価日の確認を行う
4. 受持看護師はWCFを行いながら記録をとる。WCF時に記録を取れなかった場合は、終了後に必ず記録を行う。

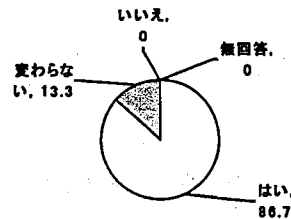
【研究方法】

1. 研究期間 2002年7月～2003年7月
2. 研究対象 当院透析室看護師7名 透析患者42名
3. WCFの実施
4. 患者アンケート調査
5. 導入により改善されたこと、今後の課題について看護師間で検討

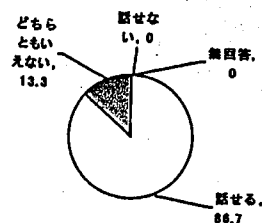
【結果】

1. アンケート結果（回答可能な患者37名に配布し回収率80%）

Q1 看護師があなたのところに伺いお話をするようになり、以前よりあなたの思っていることが伝わりやすくなりましたか？

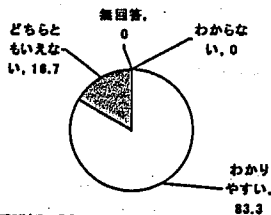


Q2 看護師があなたのところに伺ったとき、思っていることを話せますか？

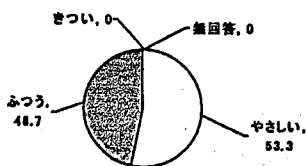


Q1, 2は導入により思ったことが看護師に伝わり、話しやすくなったという回答を8割強の人がしている。

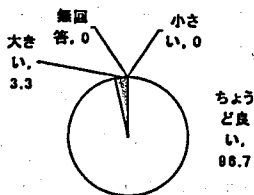
Q3 1)看護師の話の内容はどうですか？



2)看護師の話し方はどうですか？

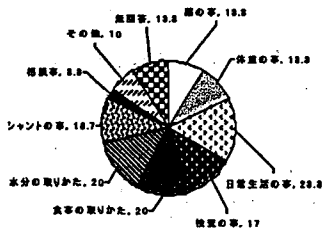


3)看護師の声の大きさはどうですか？



Q3の1) 2) 3)は看護師の話の内容、話し方、声の大きさは適切であったという回答と判断できる。

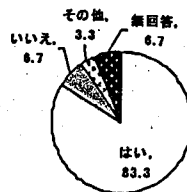
Q4 選ってくる看護師ごどのような事を希望しますか？



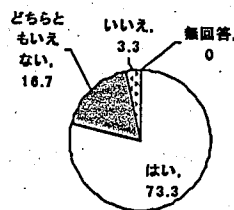
Q4より看護師に相談したい内容としては、日常生活のすごし方、食事のとり方、水分の取り方が上位をしめた。以下相談したい内容は患者

それぞれ違っていたが、透析に関する事がほとんどであった。

Q5 選ってくる看護師の人数は、今の人数でよいですか？



Q6 看護師にお話をしたことにより、満足が得られますか？



Q5, 6より看護師と治療、検査、ケアの話をしたことにより多くの人が満足を得ているとの回答だった。

2. WCF 導入後の看護師の意見

- 1) 患者の問題、ケアおよび指導の確認が看護師2名、患者1名で行えた。
- 2) 全員のベッドサイドへ行き話をするのが習慣化され、情報が患者と看護師の間で毎回共有化されるようになった。
- 3) 看護計画の立案が容易になった。
- 4) 看護計画の評価を予定日に行えるようになった。
- 5) WCFを行うことにより、看護師の指導レベルが均一化された。

[考察]

WCFを行う事により、看護問題に焦点を当てることができ、互いに確認することが可能となったため、看護計画の立案が容易になった。WCFは三者で問題を話し合うことにより問題に焦点を当てやすくなった。看護師が問題と思っても患者が問題と思っていない場合もあり、

お互いに理解し、医療者側からの一方的な押し付けでない指導、ケア提供になったと思われる。

除水量、透析時間、検査、ケア提供等に関して、WCF 時看護師二人の目で確認することにより、より正確となり、自身を持って実施できる。ベットサイドで行う確認行為は患者も安心感があり、納得できる行為であると思われる。WCF は、その場にて問題解決や指導を必要とするので、看護師の力量や経験年数が問われる。当院では、看護師2名で患者に対応し、互いに不足している部分を補いながら指導を行うため、指導の統一ができた。また看護師の教育の場になっており、レベルの均一化が図れたと思われる。

WCF を記録に残すのは、WCF 時に行うこととした。WCF を記録に残すのは忙しい作業であるが、後で記憶を頼りに書くよりは情報漏れがなく、話し合いの内容がそのまま記録となり、情報不足や問題のズレが解消され看護計画の立案が容易になったと思う。

WCF により患者と看護師との意見交換ができ、患者も納得した上での指導となったので、患者の満足につながったものと考えられる。

[今後の課題]

1. 看護師2人で患者のところへ行き話し合うため、威圧感を与えない会話態度の工夫。
2. ベッドが隣接しているため、プライバシーへの配慮を考えた実施方法。
3. ある程度時間をとらないとお互い満足のいく話し合いにならないため、他の業務との時間調節。

[参考文献]

- 1) 岩井邦子：看護記録第7版
- 2) 川島みどり、杉野元子：看護カンファレンス第2版